

6. 審査、順位に関する規定

- (1) 審査員長、副審査員長、審査員の人数及び役割は次の通りとする。
 - ① 審査員長 1 名、副審査員長 1 名以上とし、審査の円滑な遂行を総括する。
 - ② 審査員は準々決勝は 3 名・準決勝・決勝は 5 名とする。
 - ③ ペナルティ審査員は 1 名とする。
- (2) 準々決勝・準決勝・決勝は次の通りとする。
 - ① 準々決勝出場人数により準決勝進出人数は実行委員会において決定する。
 - ② 準決勝上位 8 位までが決勝に進出することを基本とする。
 - ③ 出場人数により、準決勝を行わず決勝のみとする場合がある。
- (3) 順位の決定は次の通りにする。
 - ① 審査員の評点（10 点法小数点第 2 位まで）からペナルティを差し引き審査員の得点とする。
 - ② 準々決勝は審査員の席次合計により決定をする。
 - ③ 複数コートで準々決勝を行う場合、得点合計により準決勝進出者を決定する。
 - ④ 準決勝・決勝は各審査員の得点より席次点を算出し、全審査員の最上位・最下位を除いた席次点合計の低い方を上位とし、順位を決定する。
- (4) 同位者のみ次の優先順に従って順位を決定する。
 - 優先順 1 全審査員の席次点合計の低い方を上位とする。
 - 優先順 2 全審査員の最高点・最低点を除いた得点合計の高い方を上位とする。
 - 優先順 3 全審査員の得点合計の高い方を上位とする。
 - ① 上記手順によっても決勝進出最終順位が同位の場合は全員決勝に進出する。
 - ② 同率順位はそのままとし、次位を空位とする。
 - ③ 全日本推薦最終順位が同位の場合は、評点の上下カット合計の高い方を上位とする。
※準々決勝・準決勝を棄権した場合は棄権とし、決勝を棄権した場合は決勝の最下位とする。
ただし、準決勝を行わない決勝においての棄権は棄権とする。

※審査方法は全日本選手権の審査方法で行う。

[6 種目の審査は部門にかかわらず下記の 5 つのレベルで評価]

フェア [0.0~2.9]

基本的なトワリングとボディワークの習得レベル

アベレージ [3.0~4.9]

基本から展開が見られるレベル

グッド [5.0~6.9]

3 モードでの展開が見られ、バラエティー・ディフィカルティーが見られるレベル

エクセレント [7.0~8.9]

正確で、質の高いトワリングとボディワークに、バラエティー・ディフィカルティーが見られるレベル

スペリア [9.0~10.0]

すべてにおいてバランスがとれ、リスクの高さ・質・難易度共に最高のレベル